

理事長就任のご挨拶

先般、令和3年5月27日に開催されました「京都府電機商業組合第59回通常総代会」に於きまして、新理事長に就任いたしました河村でございます。就任に当たりまして、組合員の皆さまにご挨拶申し上げます。

私は、京都市役所北側で営業します京都電工株式会社の二代目社長を務めており、中京支部に所属しております。チェーン店組織の本部長も兼任しています。平成19年に中京支部選出理事、平成29年に専務理事に就任いたしました。

まずもって、8期16年の永きに渡り理事長職を全うされ、この度退任されました牧野伸彦前理事長に、心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。そして、ご苦労さまでございました。在任中には、リーマンショック、地デジ化によるアナログ停波、東日本大震災、そして昨年来のコロナ騒動など、未曾有の現象が数多く発生しましたが、その都度、牧野さまは、我が京都商組を献身的に牽引してくださいました。非営利の商工組合から事業組合への改編、長期あんしん保証制度の創設、全国電機販売生活協同組合事業(火災共済)への全店加入、そして支部の再編成と、組合改革に対して懸命に取り組んでこられました。その結果として、逡減する賦課金収入を補う収益を上げて、今日の健全な財務体質を築くことになりました。この経営基盤を、今後も維持し発展させることが、バトンを受け持った者に課せられた責務であると、強く感じているところであります。

当組合が抱える課題は山積していますが、その最たるものは、店主の高齢化と後継者不在による廃業が後を絶たない問題です。4人に1人が65歳以上という人口構成は、今後ますます顕著に進み、世界中で類を見ない高齢化社会がやってきます。一方でIoT(Internet of Things)が進化し、インターネットに繋がる家電品(テレビ・エアコン・冷蔵庫・洗濯機・電子レンジ等々)がどんどん増えて、高齢者にはお手上げの状況となり、お困り事を解決できる我々地域電気店の活躍が期待できる土壌が広がっています。ところがその担い手が不足している、という残念な状態にあるのが現実です。解決の糸口を見だし、業界全体の課題として取り組む姿勢が大切と感じます。今こそ『事業継業支援センター』が機能を発揮する時だと思えます。また、これに関連して、家族経営から事業経営に向けての人材採用や育成、経営理念・経営計画についての学びの場を設営したいとも考えています。

次に、令和4年春に始まる4支部の新組織体制を順調に機能させる基盤を早急に整備しなければなりません。そのためには、コロナ禍で培ったオンライン会議システム運用の輪を、支部ごとの地区長・理事合同会議にまで広げて、情報の共有、改善案や意見の収集に務める必要があります。本部主導ではなく、およそ100名規模となる各支部の主導のもとで、組織の体制と会計の運用規則を整えていただくなど、本格的な検討をすすめるべきではありません。

結びに、数多くの功績を残され、理事長職を完璧にこなしてこられた牧野さまからバトンをいただき、これからの京都商組を託され、そしてまた次の方にバトンをお渡しする、いわば中継者の役割をいただきました。重責を感じております。課題解決に当たりましては、新三役・委員長を始め、全理事・全支部長、そしてすべての組合員の皆さまのご理解とご協力が必要となります。何卒、皆さま方のご指導、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

新理事長 河村泰三